

刻石流水（こくせきりゅうすい）とは・・・

11月27日（木）

期末テスト最終日です。期末テストが終わると、いよいよ3年生は進路決定に向けた期末懇談会が始まります。期末懇談会は12月10日（水）からですが、懇談の時間は20分程度ですので、懇談会までに卒業後の進路について家庭で十分な話し合いを持って欲しいと思います。刻石流水（こくせきりゅうすい）という言葉をして言いますか。まず「与えた恩はすぐに忘れるな」。次に「受けた恩は決して忘れるな」。これは表裏一体です。受けた恩は石に刻



み、かけた情は水に流せ、という意味です。私たちは、損得、貸し借りの世界で生きています。だからどうしても「あれだけ貢献したのだから、しかるべき報いがほしい」となります。これは当然だし、そもそもこれを否定したらいろいろことは成り立ちません。ビジネス（労働）では、持ちつ持たれつ、ギブ&テイクがあたり前。見返りを期待しないのはきれいごと聞こえます。少し視点を上げて、生活での心構えのように考えてみてはどうでしょう。つまりこの考え方を言葉にして思い出せばイライラしない。例えば、「我が家は旅行のお土産をお隣さんにあげたのに、お隣さんは何もくれない」なんてことも、刻石流水、刻石流水、と唱える。困った時に助けてもらっても同じです。こちらは忘れず、逆の時は必ず助ける。これを繰り返していると、いつの間にか、すごく心に余裕が出てくる気がします。いいことも起きそうだな。「見返りはいらないけど、感謝くらいほしいな」というのが本音かもしれませんが、一時話題になったスーパーボランティアの尾畠春夫さんも刻石流水の趣旨を語っています。このあたりになると、1対1の「恩返し」ではなく、世の中に対する「恩送り」です。恩送りとは、誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送ることだそうです。典型なのは、匿名の寄付や献血。恩が世の中をグルグル回る。英語にも、Pay It Forward、という言葉があり、恩送りに近い意味で、運動にもなっているようです。ちなみに恩返しは、Pay It Back。なんでも数値化してメリット/デメリットを比較する現在、若いうちはギラギラしたエネルギーが必要です。でも年齢を重ねるにしたがって、刻石流水という考え方を大事にしたいなと思います。

